

令和7年7月6日 サンリフレ

<JARL 渡島檜山支部>

令和7年度第2回役員会

(司会 小野田 記録 佐々木)

1 支部長挨拶

フォックス、特別記念局、そして、非常通信伝達訓練など、支部行事に参加、ご協力いただき、感謝しています。8月以降の行事について、話し合いよろしくお願いします。

2 参加者自己紹介

JM8UUY JI8PLY JK8XBR JM8OTS JA8WNR JH8NNW JA8VKV

3 報告事項

- (1)フォックスハンティングの反省
- (2)北海道ハムフェア特別局の反省と運用状況
- (3)令和7年度JARL社員総会の様子
- (4)支部ホームページについて
- (5)支部の会員の動向について
- (6)第1四半期の予算の執行状況について

4 協議事項

- (1)蔦屋イベント(8/3)について
- (2)青少年のための科学の祭典(8/31)について
- (3)令和7年度支部報の発行について
- (4)令和7年度支部大会(9/14)について
- (5)令和7年度第33回渡島檜山支部コンテストについて
- (6)支部2mアクティブプロジェクトについて
- (7)青森県支部大会(9/27)への参加体制について
- (8)講習会(四アマ8/10,17 三アマ10/5)の支援体制について
- (9)地域クラブの立ち上げについて

5 その他参加者から

令和7年7月6日

<JH8CBH>

フォックスハンティングの反省について

1 実施日時 令和7年6月8日(日)

2 場所 見晴らし公園

3 参加者 17名

4 収支

収入 会費 1300円×17名 合計 22100円

支出 食材 15410円 賞状 539円 保険 432円 おにぎり 2843円

ごみ袋 160円 写真 544円 合計 19928円

収支 2172円余り支部費へ

JARLの会計要項により、会費は一度雑収入に入れ、支出は催事費より執行した。

5 結果 1位 JH8NNW 2位 JA8VKV 3位 JK8XBR 4位 JM8UUY 5位 JR8GTZ

キツネ JA8WNR タヌキ JA8EJK

6 反省点

- ・復活行事で、参加数が心配であったが、多数参加できて良かったと考える。天気も最高だった。懇親会も行うことができ、次年度も実施の方向で考えたい。
- ・当初予定していた四季の杜公園の(利用料、イベントの関係)の利用がむずかしくなったため、近郊で場所を探し、火を使える場所と言うことで、役員で下見の上、見晴らし公園に決めた。電波の伝搬状況も事前に確認した。会場としては、アップダウンはあるものの、隠れ場所もあり、大きな指摘はなかった。次年度は、さらに候補に挙げた場所も含めて、下見をし、場所選定をしていきたい。
- ・予算の執行については、特に問題なかったと考える。
- ・たぬき、きつねカードも新しくなって、当分の間大丈夫である。
- ・144メガのFMの2波で行ったが、飛び具合も良かったのではないかな。

反省の通り、来年度も実施していきたい。

場所については、来春、候補地を下見しながら検討していく。

令和7年7月6日

<JH8CBH>

特別記念局の反省

- 1 特別記念局名 8J8HAM 北海道ハムフェアPR局
- 2 期間 6月20日から29日 渡島檜山支部担当
- 3 交信の概要 別紙のとおり
- 4 体験運用 4名(男性3名 女性1名 いずれも成人)

5 反省

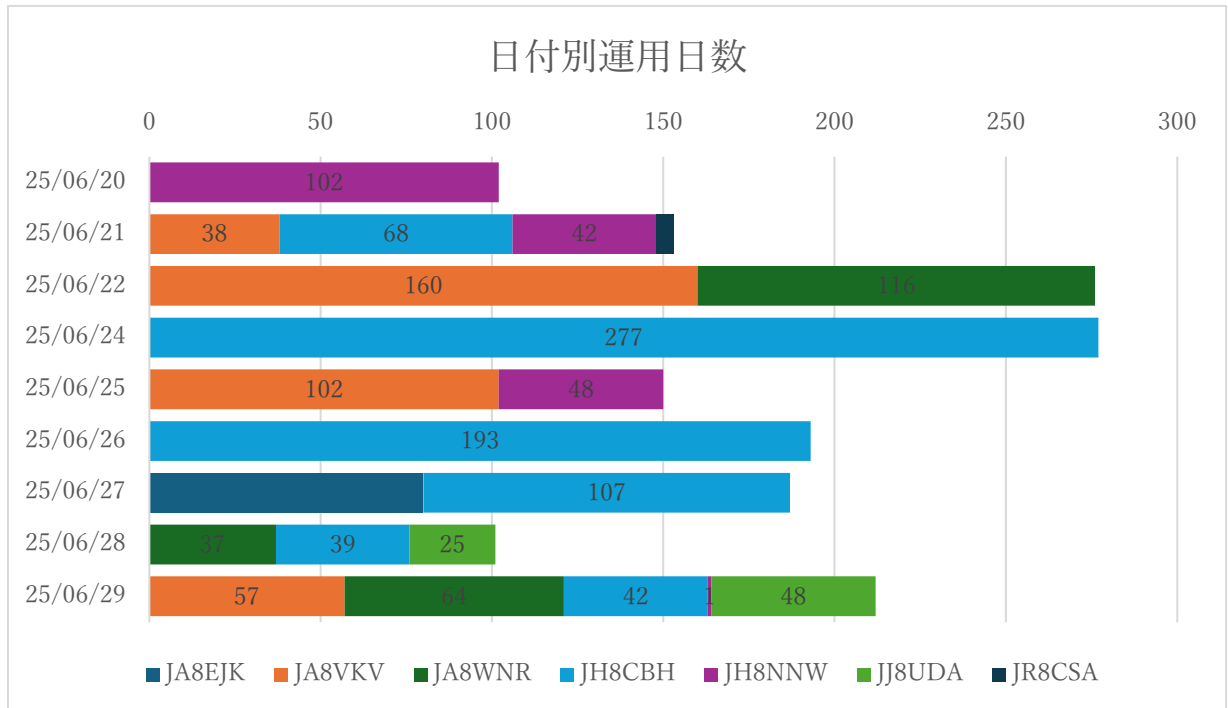
- ・北海道総合通信局より、特別局運用立会指導者及び運用者名簿の事前報告が求められるようになり、このことでの行き違いからトラブルが起こった。立会指導者名簿に登録することは、強制ではなく、個人の意思であることを確認した。
- ・望洋塾の運用が中心となった。隣家(支部長自宅)から同軸を引いて、家人を気にすることなく運用できたのは良かった。ただ、アンテナ切り替えは、自宅のシャックのコントローラーで調整する必要があった。
- ・一日であったが、運用者の折り合いがつかず、オンエアできない日があった。
- ・移動しての公開運用に際しては、昨年のアンテナ類の寄付もあり、HFDP(7, 14, 21, 28)とVUHFGPについては、同軸を含めて全て整備している。
- ・摩周丸の運用に関しては、先方の理解もあり、アンテナ設営、無線室の利用は、うまくいった。HFのダイポールの位置と、旗の位置が近かったので、ダイポールの場所については、位置をずらすなど工夫が必要(同軸の長さは十分あり)
- ・摩周丸に隣接する大型船舶への無線通信障害について、心配する意見をいただいたので、北海道地方本部とも相談しながら、支障はなしと判断で、今回の企画を進めた。
- ・摩周丸においては、観光客は多かったが、体験運用と言うのはやはりハードルが高いことが分かった。それでも無線経験者なども含めて4名が体験運用を行うことができて良かったと思う。運用者からは「やってみたいと思う」、「興味がある。」などの反省をいただいた。
- ・アンテナ設営、撤去及び運営に携わってくれた方については、入場料と昼食、飲み物について支部費から執行した。
- ・特別局は、呼ばれる確率が高く、通信訓練の絶好の機会にもなるので、今後も、そのような機会には、会員に積極的に声掛けをしていきたい。
- ・事故なく終了でき、次の支部にバトンタッチできたことは、良かった。

望洋塾が中心となったが、たくさんの方に運用してもらえてよかった。
また、体験局も迎えることができ、今後、花が咲くことを期待したい。

令和7年6月29日

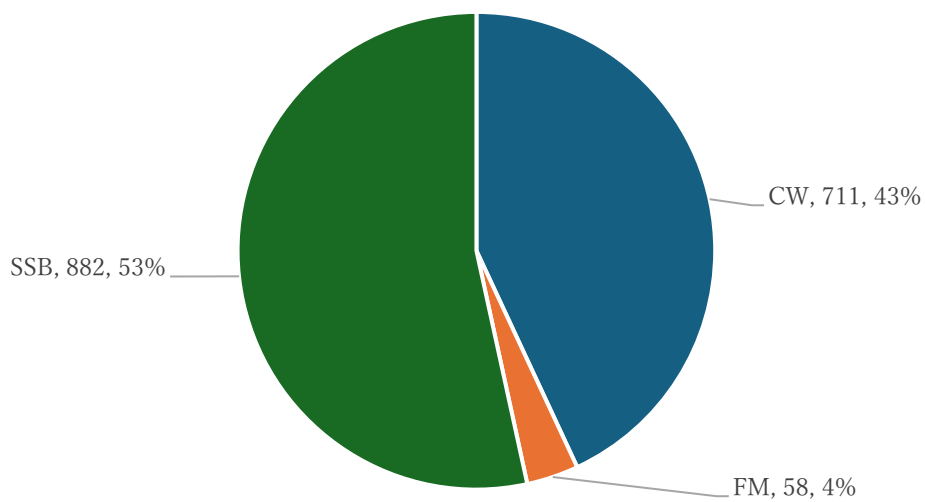
JARL 渡島檜山支部 8J8HAMの運用について

以下の通り運用いたしましたので、概要を報告いたします。
コールいただきました皆さんにお礼申し上げます。
トータル1651局の交信となりました。

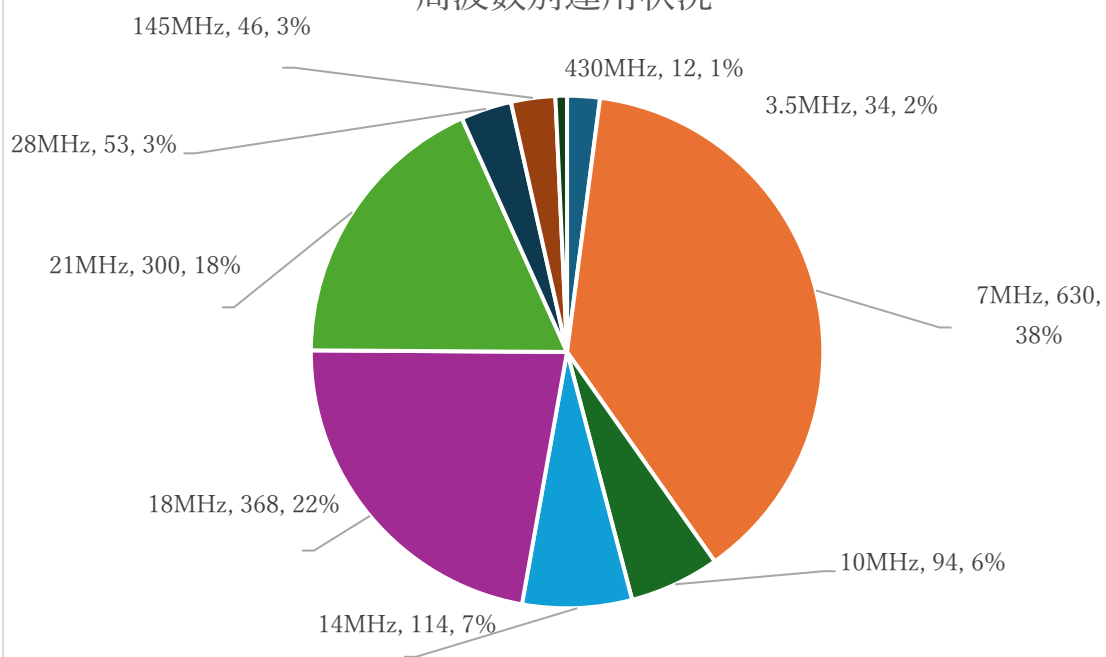


20 日～27 日望洋塾 28 日～29 日摩周丸 28 日夜(函館市(樞法華))

モード別運用局数



周波数別運用状況



令和 7 年6月 23 日

<JH8CBH>

第 14 回 JARL 社員総会の様子

支部の皆様、社員総会へ出席して参りました。
昨日の社員総会の様子、また私の発言を報告します。

期日:令和 7 年6月 22 日(日)午後 1 時

場所:ステーションコンファレンス万世橋(秋葉原のだいぶ前の交通博物館があった所)

総会終了は 16 時 52 分(当初終了予定は 15 時)

その後すぐ、引き続いて社員懇談会(JARL の財政、QSL、会費などについての懇談)

全て終わったのは 18 時 10 分頃(当初終了予定は17時)

第 1 号議案

令和6年度決算 →可決 CBH は賛成

第 2 号議案

社員総会のデジタル化 →可決 CBH は賛成

第 3 号議案

社員の交代時期を 4 月 1 日にする件 否決(賛成が 85 票あったが3分の2の 90 へ行っていない) CBH は賛成

私の賛成理由:事業年度、会計年度が4月 1 日始まりに対して、6月からの執行ではなく、そろえてほしい。総会で、去り行く社員が次の年のことを決めるのではなく、これから役目を果たしていく人が新しいことをきめていくべき。

第 4 号議案

役職者の年齢制限、選ばれる回数の制限をかける件 可決 CBH は反対
年齢で切ってしまうのではなく、エネルギーのある人は、やってもいいと思うから。

第 5 号議案

支部長が社員を兼任するかどうかを希望性にする件 否決 CBH は反対
支部の状況を一番わかっているのは支部長で去るし、それを総会出席ということで意見を伝える責務があると考えから
・発言しました

ロールコールでも厳しい意見が出ていた。今後も、JARLに思いを伝える機会があるので、気になることは申し出ていただきたい。

第 6 号議案

一票の格差について 第 5 号議案が否決されたため扱われず

第 7 号議案

専門分野の方を理事会で推薦して理事になれる件 否決 CBH は反対

専門分野ということであるが、全ての理事会の審議事項に加わるというのは、問題がある。議決権は選挙で選ばれた人であってほしい。重要な意見を聞くのであれば、理事会に出席できるようにして、議決には加わらなければいいのではないか。自分専門性を活かしたいのであれば、是非立候補して、選挙を通してほしいから。

第 8 号議案

理事の候補者に関する件(地方本部長が理事もやると約束をするという件)

否決 CBH は反対

当選したら、理事もきちんとやる人が立候補すればいい話だから。

第 9 号議案

会長が欠けたら、副会長でなく、業務執行理事権がある理事が業務代行をする件

否決 CBH は反対

会長欠けた時は、副会長という一般的なことで、あえてここで変更する必要はないと思うため。

・発言しました。

第 5 号議案における発言

佐々木:」函館市の佐々木です。どうぞよろしくお願いいたします。この議案も、その次の議案もそうなのですが。理事会でも、反対意見が出ていますし。7対8で理事会を通ったということですし、準備書面などにおいても結構慎重に、もうちょっと考えた方がいいんじゃないかというのが多いと思うんです。今日この段階で白黒つけてしまうのではなく、山内さんの方でもう少しゆっくり考えていただいて、支部長がたいへんなのかどうなのかということをもう少し時間をかけて論議してから、それからいいか悪いか、決めていったらいいんじゃないかと思います。

山内さん:今回これが成立しないと3年後になると思います。仮に中身が賛成であるんだけど、3年後でいいんじゃないかという意見が多いのであれば、附則改正ということが考えられます。40 ページの下で、来年の選挙からというのではなく3年後の選挙

からというというのも一応ありうるのですが、そういうことなんですね。」

佐々木:「急ぎ過ぎだと思うんです。もう少しみんなが本当にそれがいいのか悪いのかって言うのを、各支部でも、会員の声でも、理事会でも、もうすこし深めて議論して、それから判断するということで、今回は、私は、賛成、反対で決めちゃうんじゃないかと、保留って言うのがあるのかどうかわからないけれど、一回流したらいいんじゃないかと私は思います。」

山内:「議案を引っ込めるというのは難しいんで……」

8 号議案における発言

佐々木:「JH8CBH です。山内さんすごくがんばっていらっしゃって、尊敬しているんですけど、自分に転がってくる可能性のある所を、ご自身で提案をされると、李下に冠を正さずで、そういうところはあると思うんです。やっぱり山内さん、法律家だから、議事執行権がなんだかと言われると、うんまあそうだよなあということになっちゃうのかなあというのが、今日の会議を見ても、お話しているの山内さんだけじゃないですか。だから、やっぱり、そこらへん、会長さん、副会長さんからも、理事会の様子って言うか、もうちょっと聞ければなあという思いはあります。

会長「JA5SUD 会長の森田です。私は今回準備書面の方で頂きましたが、やっぱりちょっとそのような形がいたしました。私は代行は副会長でいいんじゃないかと、そもそも定款に出すような中身かなあと思ったのですが、そういった感じが私は感じましたので、反対させていただきました。

総会後の懇談会における発言

佐々木:「2 点あります。まず JARLNEWS の方、紙版はなくなるということですが、各自印刷してくださいということだったと思います。私、支部のところ、だいぶお手紙配りに回りました。半分以上の方、残念ながら、ほとんど無線やっていません。でも、JARL 会員でいてくださいます。その方たちが JARLNEWS が止まったら、JARL やめちゃうんじゃないかって。そのへんは、ちょっと慎重にシミュレーションしないと、会員減に直接つながってきてしまうんじゃないかなあっていう懸念を私はすごく持っています。これが JARLNEWS。

それと QSL カード。さっきも山形の方がおっしゃいましたけれど、「何のために JARL に入るの」「カードでしょ」これです。ここはお金をかけてでも、たまっている分、だいたい 11 カ月というのは固定されていますから、たまっている分同じなんですよ。だからそこはお金をかけてでも、箱で送ってくれば、私が仕分けしてでも、例えば受益者負担にしても、一時的にお金を上げてでも、そこは緊急に解決していかなければならない問題だと思います。以上です。」

山内さん「紙ベースを原則なくす。佐々木さんと会うたびに言われるので、私もずっと

考えているんです。例えばですけど、今考えているのは PDF で印刷できるようなものを WEB に載せて、それで満足する方もいっぱいいる。それを見ると事務費変革してそれを回す。それを支部で配っているのであれば、それに支部費としてお金を付ける。支部で印刷していただいて、支部で回すって言うような形で、必要なところにはお金を付けるという解決策は一つあるのではないかなあと思います。そうすると全員に対して配らなければならないところが減るので、3500万がいくらになるかわかりませんが、減ると考えております。

佐々木「会員減は、ないんだろうという見込みなんだよね。」

山内「そんなことは、言っていない。佐々木さん、支部長、紙を持ちながら、会員を回っているという努力を聞いていたので、そういうことをされている支部が他にもあると思うんです。郵便で送っているとか。そういうところにはお金を付けることで解決できるのではないかと思います。」

令和 7 年 7 月 6 日

<JH8CBH>

支部のホームページについて

1 経過

JARL 渡島檜山支部のホームページができたのは 2001 年(JARL 函館総会の翌年)であった。当時、NTT に勤めていた村井(JA8IOT)さんが、その分野に長けていたため、自前サーバーで運用し、取材から、コンテンツのアップまで全て行っていた。

私が支部長に代わって、JARLサーバーへ変更した。従前のホームページについては、福島(JA8IRQ)さんのサーバーに移し、現在でも支部ホームページからリンクを張っている。

その後支部長が代わり、ワードプレスによる支部ホームページへと移ったが、再び、私が支部長になって、JARLサーバーへ戻す形となった。JARLサーバーは、無料であるが、ワードプレスなどの新しい技術はサポートしていない。

令和 6 年度の年度末反省で、改善を求める声が複数あったため、今回、IT関係に詳しい池田(JM8UTW)さんが入ったこともあり、ホームページの改善に着手することになった。

2 新しいホームページ

(1)新しいホームページのアドレス

<https://ohs.hokkaido.jp/>

支部役員で、いくつかの案を出し、分かりやすいものとした。

具体的な作業に現在入っている。近々正式案内したい。

(2)契約

さくらネットと1年間契約した。

レンタルサーバー 7,150 円 ドメイン 2,607 円 合計 9,757 円

(3)新しいホームページの特徴

- ・ブラウザ(ホームページを見る手段 パソコン、スマホ、タブレット・・)を問わず、見やすいように表示される。
- ・ID とパスワードで、担当者が自分の担当のところを投稿、削除、修正ができる。
- ・これまで通り、情報を迅速に伝えていきたい。

(4)その他

- ・JARL サーバーが古いということで、そこを更新し、全国の支部が新しい技術を用いることができるホームページが開設されるよう要望している。

7 月中旬等のめどをつけて、進行してほしい。
進捗状況を確認する。

津軽海峡コンテストについて

10局以上のしぼりをなくし、参加者には1点を与えてほしい。

それぞれの支部管内で運用した局は、所属地域に関わらず、その管内のポイントとしてほしい。
社団局・個人局を撤廃し、シングルオペ、マルチオペのくくりにしてほしい。

令和7年7月6日

<JH8CBH>

会員の状況について

支部では、毎月支部会員のデータを JARL より送ってもらっております。請求するともらえます。

すでに毎月 OHS で報告済みではあります。

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
クラブ	4	4	4	4	4	4	4
正会員	180	182	181	180	177	178	176
准会員	29	28	28	28	28	28	28
家族員	5	1	5	5	5	5	5
別コール	1	1	1	1	1	1	1
合計	219	216	219	218	215	216	214
前月比	0	-3	3	-1	-3	1	-2

ご覧の通り昨年の12月から6月までで4名減っておりますが、新規登録者も3名おります。

JARL に入る意義として、大きい比重を占めていると思われる「カード転送」の遅延がなかなか解決しないこと、長らくアマチュア無線から離れていることなどが、考えられますが、支部としては、会員一人一人との距離をできるだけ身近に保つよう、情報発信に努めて参りたいと思います。

また、支部活動も JARL の大切な活動であることをわかってもらえるような企画を進めて参りたいと思います。

「会費が高い」と言う声を聞きます。「費用対効果」という視点では、そう感じるのかもしれませんが、物価高の折、この年 7200 円という会費は平成6年に改定されて以来、30年、値上げされておられませんこともお伝えしたいと思います。

どうぞ、これからもポケットマネーから年 7200 円を出していただき、JARL 会員でいていただきたく願います。

あまり、無線をやっていないなくても会員でいてくれる方も多いので、できるだけ情報を届け、支部活動の様子、アマチュア無線の楽しさを発信していく。

令和7年度 渡島檜山支部報告書

本部長		支部長		支部会計		渡島・檜山支部				

今後のアマチュア無線で気になること

1. 函館市とその近郊3市町において、最近開局した局数を総務省ポータルサイトで検索してみました。

<JM8U〇〇コールの局数> 2023年12月～2025年2月開局

函館市 23局 北斗市 5局 七飯町 9局 計37局

うち2024年12月以降開局したコール

UWH・UXE・UXL・UYH・UYS・UYT・UYX・UYU・UZT 計9局

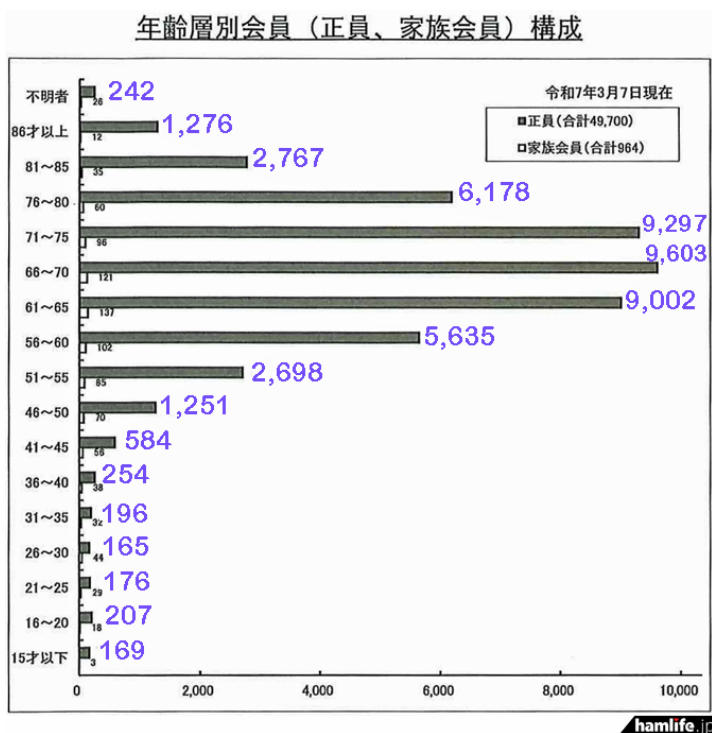
<JM8V〇〇コールの局数> 2025年2月～現在の開局

函館市 9局 北斗市 1局 七飯町 なし 計10局

VAX・VBC・VBG・VBT・VED・VEX・VFP・VHC・VIF・VIH

2024年12月以降に開局したJM8U〇〇が9局、そしてJM8V〇〇の10局と合わせた19局は、おそらく昨年10月の4アマ講習会で従事者免許証を取得した方(17名)がかなり含まれている可能性が高いと思われます。はたしてこれらの局の中で、実際に運用している方はどのくらいいるのでしょうか。これらの方々のコールを聞いたことがありますか？

2. 下図は2025年3月現在のJARLの年齢別会員数です。



以前から言われていることではありますが、あらためて見てみるとアマチュア無線界の存在自体が危ぶまれます。

上記の2点から、今後は次の2つに注力することが必要かなと感じます。

- ・開局した人に実際運用してもらうこと
- ・若年層を増やすこと

現実として、トラックや船の方の免許取得が多い。運転手の求人募集に「アマチュア無線の免許」記載されているものもある。

動機はいかようでも、ルールを守って運用してほしいという2025年7月6日 JA8VKV 小野田
ことと同時に、アマチュア無線の楽しさ、すばらしさも講習会で指導していきたい。

現在のJARLの年齢構成は、60代から70代が多い。

若者を育成することは急務である。

あらゆる機会に、若者たちに声をかけ、アマチュア無線というものを知ってほしい

道南地域でも、新規の開局者がいるが、コールを聞くことがまずない。令和7年7月1日

小野田 伸 (JA8VKV)

蔦屋書店でのイベントについて

日時：令和7年8月3日(日) 10時～15時

会場：蔦屋書店2階ホール

イベント名：トントントン・ツーツーツー・トントントンでつながる世界

(副題) アマチュア無線てこんなに面白い！

目的：アマチュア無線を知らない人を対象に興味を持ってもらうイベントにする

そのためには：特に小中高生がくいつくモノ、現在のアマチュア無線が分かるモノ
を実施&展示する

内容：

モールス通信体験コーナー

WIRES-Xの公開運用と体験運用

講演 「モールス通信て面白い！」 「片手に持ったトランシーバーで海外と交信！」 →この2テーマを2回繰り返す

ビデオ上映…講演と講演の間の時間に

展示…現在はやりの無線機(IC705、FT991、IC7300など、様々なハンディ機)

※懐かしいリグの展示は今回なし

モールス符号を探して言葉を当てよう！ゲーム

目的を達成するために、テーマを「モールス通信」と「WIRES-X」の二つに絞り、それを徹底的に知らしめます。多くのテーマを取り上げ過ぎるとポイントがぼやけます。一点(二点)集中するということです。

モールス符号ゲームの内容(案)

店内の数か所に、紙に書いたモールス符号を貼り出しておき、それを文字に変換して並び替えて言葉を作る。貼り出してある場所のヒントを書いた案内図を渡す。

例) スタバの横 ・— —・／子ども遊具の滑り台・—／ホワイトボード・—・・

北側出入口 ・— —・／ファミマ入口 ・

↓

P／A／L／P／E ⇒APPLE 「アップル！」

各回で早い順に順位を付けて上位3名に賞状を渡す。4位以下には参加証を渡す。

参加者全員にお菓子？をプレゼント。アマチュア無線のアピールグッズを同時に配付。

当日のタイムテーブル

	講演	ゲーム	モールス体験	WIRES-X	展示
9:00	関係者集合 打ち合わせ 準備開始				
10:00	開会式				
10:10	モールス通信		開始	開始	開始
10:40					
10:45		第1回			
11:00	片手でDX			講演へ	
11:20					
11:30		第2回			
11:45					
12:00	ビデオ流す	休憩			
13:00	モールス通信				
13:30					
13:35		第3回			
13:45					
13:50	片手でDX			講演へ	
14:10		第4回			
14:30	閉会式		終了	終了	終了
15:00	後始末完了				

総監督・挨拶：佐々木支部長

進行：小野田

講演者：モールス通信～小野田 片手でDX～村田さん

ゲーム担当：() () ※補助：小野田

モールス体験担当：() ()

WIRES-X 担当：村田さん ()

展示担当：()

こどもたちは、モールスにとっても興味を示すので、そのあたりと、体験で全国と話をして、アマチュア無線の楽しさをPRしていく。

事前のPRが大切であり、今後詰めていく。

令和7年7月6日

<佐々木 朗>

青少年の科学の祭典への対応について

1 目的

- (1)ラジオ作りを通して、子どもたちの科学へ、そして見えない電波への興味を持たせ、アマチュア無線への緩やかな誘（いざな）いの場とする。
- (2)JARL 渡島檜山支部会員の制作技能を向上させ、次世代への技術の伝承を図るとともに、会員同士の交流の場とする。

2 経過

青少年のための科学の祭典については、1999年から始まり（JARL 渡島檜山支部もそのあたりから参加）、2019年まで続いた。当初は函館市民会館小ホールで開催され、途中から千代台陸上競技場の室内トラックに場所を移し、しばらく続いていた。ところがコロナのため、開催ができず、昨年4年振りに市民会館で開催することができた。今年は、場所が変更になり、コロナ以前の会場に戻るようになった。

青少年のための科学の祭典は、全国で行われており、その資金は、「子どもゆめ基金」という団体からの助成金を受けて活動をしている。

科学の祭典の事務局長は京都の立命館慶祥高校の渡辺儀輝先生であり、以前南茅部高校の先生をしていた時代に、理科の教員仲間として知り合い、それを通して、アマチュア無線連盟もこの大会に参加してきた。

従前は、大人一人当たり3000円ほどの助成金が出ており、それらを全て戻していたが、1個1000円程度の2石のAMラジオを30個ほど購入していたが、AM放送の廃止の方向性を受けたのかキットも入手が難しくなってきた。時代はFMラジオに移ったと言える。昨年は一台2500円のスピーカーが鳴るFMラジオを提供した。

その一方、昨年は、インストラクターに対する助成金の一万円は個人の口座に振り込まれ、それを期待して、ラジオ代に充てたため、若干のトラブルもあった。本年度については、広く寄付を募ると言う形で、財源を確保し、インストラクター及び会員の気持ちで運営していきたい。

3 青少年のための科学の祭典とラジオ作り

函館市財団フェスティバル（野菜市、フリーマーケット、縁日コーナーなど）の一環として青少年のための科学の祭典が行われている。祭典では、大学生や高校生の理科サークルが、液体窒素、駒、植物の不思議、天体、果物電池など来場した子どもた

ちと科学実験を行っている。私たちはそのブースの一つとして、ラジオ作りを行ってきた。

4 日時 令和7年8月31日(日)

集合 9:00 開会式 9:30 イベント 10:00~15:00 閉会式 15:30

前日準備 8/20 13:00~15:00

5 場所 千代台陸上競技場 全天候型レーン内(屋根あり、コンセントなし)

6 インストラクター 10名程度

以下のインストラクターは去年のもの **今年のもの**

◎佐々木 朗 JH8CBH 村田 隆 JE8OGI 山本 正巳 JI8PLY
鍋嶋 康文 JJ8KTT 齋藤 一雄 JA8EJZ 山城 芳康 JAPWS
清水 深海 JA8WNR 松坂 誠一 JA8HJZ 恒吉 重正 JH8MCT
中澤 隆行 JH8NNW 福島 誠 JA8IRQ

◎は責任者

7 ラジオについて

いくつかキットはあるが、昨年、扱っていることから、インストラクターも安心して取り組めること、また、性能が素晴らしいことから、価格は、高いが、今年も昨年と同じ物を扱いたい。在庫も9台あり。

(1)品番 TK-744(ELEKIT)ワイドラジオ 半田付けラジオ組み立てキット 2520円(税抜き)

(2)ラジオの概要 単三2本で、素晴らしい音質で鳴る。函館市内のFM放送、楽勝に受信できた。DSPで調整部分はなし。半田付け箇所48。ICは組み立て済み。部品数も少なく、半田付け体験もでき、小学生でも十分製作可能と判断した。



(3)予習 今期このラジオで初めてインストラクターをする方は、一台事前に渡すので、組み立て方を研修しておく。完成品は、そのまま、受け取ってもらう。今年度は、初めてのインストラクターとなる松坂さん、山城さん、清水さんには一台ずつ手渡し済み。

(4)昨年の組み立て実績は21台。昨年の在庫9台あるが、3台研修用に渡してあるので6台。今回は翌年のことも考慮し、多めに購入した。

(5)電池については、別途出る消耗品から購入する。

(7)半田ごて、半田ごて台、ラジペン、ニッパーなどは支部の財産を使う。

8 事前準備 ()は責任者

(1) 必要なものがあるかどうかの確認 (佐々木)

- ・ラジオキット 35 台 (直販) + 1 台 (アマゾン) (佐々木) 手配済み
台数 35 台は次年度以降安定した参加のため、多めに購入した。
- ・電波適正利用のチラシなど (佐々木)
- ・パンフレット、ラジオを入れる袋 ()
- ・JARL 渡島檜山支部の連絡先など (ハガキ程度) (佐々木)
- ・以下全て 5 セット (半田ごて、半田ごて台、ヤニ入り半田、ニッパー、ラジオペンチ、乾電池 2 個、タオル) 足りないものの補充 (佐々木)
- ・テーブルタップ (佐々木)
- ・ラジオに貼るシール ()
- ・受付用紙 (佐々木)
- ・発電機 (佐々木) ドラムコード (佐々木) ガソリン (佐々木 (経費))
- ・掲示物 模造紙 2 枚程度 (電波の利用について) ()
- ・電池購入 アルカリ単三電池 110 円×10 パック
領収書は、「青少年のための科学の祭典」 (佐々木)

(2) 事務局との折衝 (佐々木)

(3) 前日準備 参加者 ()

長机 4 脚 椅子 10 脚

貼りもの (パーテーションなど必要か)

受信感度の確認

名札 (祭典事務局から提供ある可能性あり)、必要に応じて名刺

9 当日の担当

- ・ブースのセッティング (机、いす、貼物) 全員
- ・事務局との連携 (佐々木)
- ・写真 スナップ、全体写真 (佐々木)
- ・技術総責任者 ()
- ・受付・全体の流れ (佐々木)

10 事後

- ・お金の関係 (佐々木)
- ・J N 記事 ()
- ・支部報記事 ()

11 当日動き他 集合9時

(1)駐車場

出来るだけ乗り合わせ等をするが、一般駐車場を使うことになりそう。駐車料金は経費より支出したい。

(2)受付について

目標を20台程度とする。製作者(子ども)一人につき、インストラクター1名のペアとする。一度に扱える人数は、5組する。それを超える場合は、保護者から電話番号を聞き、時間近くになったら連絡をする旨を伝える。その場合、一台につき、およそ1時間かかるものとして、概略の待ち時間を伝える。順番が来る10分ぐらい前に電話連絡をする。電話に出ない場合は、留守電などは使わず、キャンセルとなることを伝える。

(3)製作の流れ

- ・自己紹介
- ・相手の名前学年を聞く。相手の名前は愛称などでも可
- ・何を作るかの説明
- ・留意点 特に安全な半田付けについて
- ・うまくいったところをほめてあげる。直すところは具体的に指導する。
- ・身近な電波の利用、アマチュア無線について、懇談的に話す。

(4)留意点

- ・ラジオは事前に、必ず組み立て体験をしておくこと。部品の取り付け順などを確認しておくこと。
- ・うまくラジオが鳴らなかった場合、空きスタッフで点検。それでも動かない場合は、住所などを聞いて、後日お届けとする。
- ・万が一やけどなどがあった場合は、責任者、保護者に報告するとともに、直ちに流水で冷やす。薬などは付けない。祭典事務局へもすぐに報告する。

(5)インストラクターの順番 後日検討

お昼もかんたんなものが出ますので、交代しながら取ってください。

(6)終わったら全員で後始末。簡単な反省会を持ち、16時までには解散。

12 予算

(1)収入の部

寄付	未定
合計	円

(2)支出の部

ラジオキット TK-744 1台	2,530円×35台	梱包料 700円	97,790円
ラジオキット TK-744 1台	2850円		2,850円

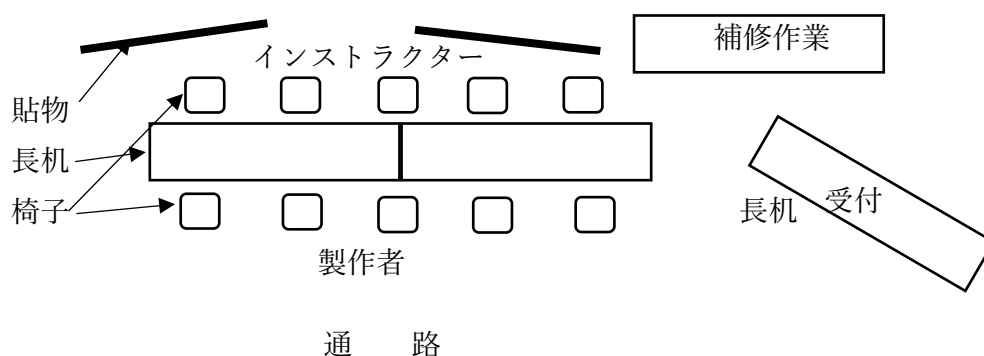
ガソリン代 160 円×5 L	800 円
その他、雑費（模造紙代など）	2,000 円
駐車場 青年センター横の斜め通りを進み右側 一日 750 円×5 台	3,750 円
予備費	2,810 円
合計	110,000 円

※収入は全て寄付により賄う。

※大人の参加者には謝礼金・交通費として事務局より 1 万円が支給され、届けてある口座に振り込まれる。

※収入も支出も全て支部会計を通す。支出は「日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部」宛領収書をもらう。

13 会場図



14 今後の日程

5 月末 ラジオ決定、発注 インストラクター募集開始

6 月末 インストラクター決定（新インストラクターにはラジオ製作体験）
祭典事務局へ報告済み

8 月中旬 配車、指導順、前日準備の進め方などを知らせる

8 月 30 日 前日準備

8 月 31 日 当日

9 月上旬決算

半田ごては小さいw数のものがいい。
半田吸い取りきを一本購入する。

令和 7 年 7 月 6 日

<JH8CBH>

令和 7 年度 J A R L 渡島檜山支部発行計画

1 目的

支部及び会員の活動状況の情報発信をすることにより、支部会員のアマチュア無線に対する士気を高めるとともに、支部の活性化、会員の親睦を深めることを目的とする。支部の活動を内外に P R する一つの機会とする。この一年間支部の会員の多くの家を周り、ポストインしてきたが、つながったことのない局、アンテナを上げていない局も数多いた。そのような中で J A R L 会員を続けていただいていることに感謝し、支部の情報をお届けし、支部の活動、アマチュア無線の楽しさを伝えていきたい。このような方は、支部と会員の唯一のつながりになっている方もいることから、全会員に目に触れていただくように努める。

2 支部報編集委員

編集長 JH8CBH 副編集長 ()

編集委員 () ()

校正 (JI8PLY JM8QYU)

3 配布に関わって

- (1) 正会員 176 名のうち、インターネットでのダウンロード(現在 60 名)を除く 116 名に郵送・手配りする。
- (2) 紙で上記の (116 部) をはじめ、ハムセンター (20 部)、ドリームレディオシステム (20 部)、関係機関への送付 (20 部)・保存 (10 部) とする。合計 186 部。また、機会を見つけて配布するために 14 部ほど印刷しておく。合計印刷は 200 部

4 推進計画

7 月 9 日(日)	提案、編集者決定
7 月	第 1 回編集会議
7 月	原稿依頼開始、広告主募集
8 月 10 日 (日)	原稿集約終了
8 月	第 2 回支部役員会 (進捗状況報告)
8 月 16 日 (土) まで	校正完了

8月17日(日) 印刷開始、封筒作成
8月25日(月) 支部報発行 発送、ショップに届け、反省会議

5 内容及責任担当者

(1) ページの割り付け (偶数・奇数で見開きとなる)

- 1P 支部大会のご案内 (佐々木)
- 2P 支部長挨拶 (佐々木)
- 3P・4P JARL 会長 北海道地方本部長、青森県支部長あいさつ (佐々木)
- 5P 支部運営方針の概略 (佐々木)
- 6P・7P 支部役員紹介 (皆さんで)
- 8P・9P・10P・11P 令和6年度支部活動報告 (佐々木)
- 12P 令和7年度事業計画 (佐々木)
- 13P 令和6年度決算、令和7年度予算 (佐々木)
- 14P フォックスハンティング (中澤)
- 15P 望洋塾 (小野田)
- 16P 摩周丸 (清水)
- 17P・18P 非常通信・奥尻地震 (中澤) (佐藤 (佐々木依頼))
- 19P 蔦屋 (小野田)
- 20P 令和6年度第32回支部コンテスト結果 (佐々木)
- 21P 令和7年度第23回津軽海峡コンテスト結果 (佐々木)
- 22P・23P 会員の実践2名 (清水さんがリー刈る局2名に依頼)
- 24P・25P 各局短信 ()
- 26P 監査指導委員会 (宮島)
- 27P NEW FACE 紹介 (小野田)
- 28P 編集後記 (佐々木)

- ・スペースを見ながら、アムール、ドリーム、他の広告を入れる。(佐々木)
- ・ページ数については一応の目途とし、増減は可能とする。ただし、ページ数は4の倍数(A3用紙のみで間に合う)、4の倍数を除く2の倍数であれば、真ん中にA4を一枚挟むことになる

(2) 1 ページの文字数 標準として 40 文字×40 程度とする。

(3) 紙面編集・印刷製本

原稿は、テキストでもワードでもエクセルでも構わない。手書きの場合は担当で電子化する。

写真については、特に形式は問わない。紙にプリントしたものでも OK。
紙資料についてはスキャンする。

(4) 原稿の送付先 (佐々木)

(5)紙面編集 (佐々木)

ワードにより体裁を整え、紙面を作成する。最終的にはPDFにする。

(6)校正 全編集委員で校正を行う。

(7)印刷 (佐々木) インク継ぎ足し方式のプリンタのためコストは安い。
インクは、一セット 5,000 円程度予算化する。

(8)発送 郵送 (佐々木) () 配達・ハムショップ (佐々木) ()

6 予算

A 3を3冊	3,500 円
インク代 1,392 円×4	6,960 円
発送費 180 円×50 部	9,000 円
封筒	500 円
予備費	1,040 円
合計	21,000 円

※広告収入 (一件 3,000 円をめど) を充て、支部費支出を抑える。

7 留意事項

会員に支部を活性化させていくためには、支部報が大切な位置づけであることを話し、原稿執筆、決められた期間での提出をお願いする。

また、原稿依頼の時、趣旨を損ねない程度に加筆修正させてもらうことのできることを得る。

各局短信については、積極的に依頼し、アイボールでの取材、聞き取りなども可とする。

第50回JARL渡島檜山支部大会 13:00～13:40 総合司会進行：小野田

※以下の担当者はとりあえずの予定です。

- 1 開会
 - 2 JARL 渡島檜山支部長挨拶
 - 3 来賓あいさつ
 - 4 祝辞紹介
 - 5 北海道地区社員紹介
 - 6 第23回津軽海峡コンテスト入賞者紹介（小野田総務幹事）
 - 7 令和6年度事業・令和7年度事業報告（中澤常任幹事）
 - 8 令和6年度会計決算・令和7年度会計予算報告（岩井会計幹事）
 - 9 監査指導報告（佐々木支部長）
 - 10 質疑応答及び意見発表
- 受付の仕方を整理する。
業者からのパンフレットは早めに請求する
ハムの集いを14:00～16:15に変更する。
抽選はハンディトランシーバーとする。
あげますはもらった人を控える（礼状）
- あげますは、公平性が保たれるように工夫する。
一度下見をしてイメージを膨らませる。

記念撮影 ～休憩

ハムの集い 14:10～16:00 司会進行：小野田

- 11 講演 14:10～14:50 北海道総合通信局様（電子申請の説明を含む）
- 12 この話をしたかった！交流会 14:50～15:20
- 13 あげます・くださいコーナー 15:20～15:40（西川さん）
- 14 抽選会 15:40～15:45（清水さん）
- 15 閉会 16:00

この話をしたかった！交流会

受付で希望グループを書いてもらい回収。第一希望・第二希望を書かせる。

↓

6～7人のグループに分ける。50名参加として7～8グループ。

↓

各グループ進行役・書記を決めてスタート

＜話すテーマの例＞

1. FT8・FreeDVについて話そう！ 2. DXについて話そう！
3. アンテナについて話そう！ 4. CWについて話そう！
5. VUHFについて話そう！ 6. WIRES-X、D-STARについて話そう！
7. 移動運用について話そう！（渡島檜山でおすすめの移動地は？）
9. 上級資格を取りたい！ 10. アワード・コンテストについて話そう！

これらのテーマは、事前に OHS やロールコールでも告知し、大会当日はスムーズに希望を出せるようにする。会員から追加テーマの希望があればそれも候補に入れる。

令和7年7月8日

<JH8CBH>

令和7年度 第33回渡島檜山支部コンテストの実施について

昨年度との変更点 **複数で点検して、ミスを防ぐ
役員でも初めての参加がいると思うが、楽しんで参加してほしい。**
48時間を24時間に短縮した。
参加部門をHFはまとめるなど整理した。

1 目的

- (1) 渡島檜山管内の会員局のアクティビティーを高め、通信技術を向上させる機会とする。
- (2) 全国に渡島檜山支部をPRする機会とする。

2 日時 令和7年9月6日(土) 21:00～9月7日(日) 21:00 まで

3 規約 詳しい規約は別紙

4 集計について

集計については、複数で行いたい。一人では、ミスを見逃してしまう可能性が大きい。昨年は、西川さん、佐藤さんにも手伝ってもらい、3名のデータがドンピシャになることを確認して、正式結果とした。

フローとして

- (1) 担当でメールを受信し、共有。郵送の場合は、即日、スキャンして担当者へ
- (2) それぞれの方法で、集計する。
- (3) 最終データを突き合わせる。

5 担当者

- (1) 全体責任者 佐々木
- (2) 郵送ログ送り先 () メール送り先 ()
- (3) 集計 () ()
- (4) 受付者リストのホームページ更新 ()
- (5) 賞状・参加証作成 ()
- (6) PRチラシ作成・配付(アムール、ドリーム) ()
- (7) JARLへの結果送付 佐々木

6 予算

賞状用紙	549 円× 3	1,647 円
賞状・参加賞発送	85 円×40 通+140 円×15 通	5,500 円
※封筒、参加賞（ハガキ）は在庫を活用する。		
		7,147 円

支部コンテスト費予算より支出する。

7 推進日程

4 月 6 日	第 1 回役員会で変更の骨子決定
5 月	支部内で規約の文言の整理
5 月 22 日	JARL へ規約送付
7 月 3 日	支部 H P に掲載
8 月中旬まで	アムール、ドリームにポスター掲示完了
8 月末まで	昨年参加者にメールでコンテスト案内
9 月 6 日	第 33 回渡島檜山支部コンテスト実施
9 月 30 日まで	受付状況随時発表 ログ提出の呼びかけ
9 月 30 日	ログ提出締め切り
10 月 1 日	受付者のホームページへのアップ
10 月 4 日	役員会 支部コンテストの反省 結果の概略報告
10 月 6 日まで	ログ最終点検 順位決定 発表
10 月 10 日まで	賞状、参加賞発送
10 月 18 日まで	結果発表、JARL に結果送付 賞状発送

7 その他

- (1)優勝者、ユニークな運用をされた方には、支部報の原稿依頼をする。
- (2)不備なログについては、提出者の了解を得て、修正するなど、失格者を出さない配慮をする。
- (3)入賞者については、次年度の支部大会で、紹介する。
- (4)昨年度活用したシートを添付した。Lasttime は同一点数の場合、最終交信時刻が速い方を上の記録とするために記した。この表を原本に、賞状作成、参加賞作成、封筒、ハガキのデータを印刷した。

第 33 回 JARL 渡島檜山支部コンテスト規約

1 日時：令和 7 年 9 月 6 日（土）21:00～9 月 7 日（日）21:00 まで

開催時間を 48 時間から 24 時間に短縮しました。

2 参加資格：日本国内で運用するアマチュア無線局

【管内局】渡島檜山管内で運用する局

【管外局】管内局以外の局

3 周波数：3.5～1200MHz 帯（3.8/10/18/24 MHz を除く）の 9 バンド

4 参加部門：シングルオペ電信電話部門のみ(部門を一部変更)

部門	管内局	管外局
マルチバンド	NM	GM
HF(3.5～28)マルチバンド	NHF	GHF
V・UHF(50～1200)マルチバンド	NVU	GVU
50MHz シングルバンド	N50	G50
144MHz シングルバンド	N144	G144
430MHz シングルバンド	N430	G430
1200MHz シングルバンド	N1200	G1200

※社団局のシングルオペによる参加は可能とする。

5 交信相手：（管内局）日本国内で運用するアマチュア局

（管外局）渡島檜山管内で運用するアマチュア局

6 交信方法：

①呼び出し 電話：CQ 渡島檜山支部コンテスト

電信：CQ OH TEST

②コンテストナンバーの交換

・管内局：RS(T)+ハムログコード（下記参照）

・管外局：RS(T)+都府県、地域(北海道)ナンバー

※したがって当コンテストでは、マルチとして 113 及び 114 は使われない。

7 得点及びマルチプレイヤー：

- ①得点：完全な交信 1 点。同じバンドで同一局と 2 回以上交信した場合、それぞれのマルチが異なっても、そのうちの 1 回のみを有効とする。
- ②マルチプレイヤー：交信相手局の運用場所を示す都府県・地域等、渡島檜山地域のハムログコード。
- ③総得点の算出方法
 - ・マルチバンドの場合 〔各バンドにおける得点の和〕×〔各バンドで得たマルチプレイヤーの和〕
 - ・シングルバンドの場合 〔当該バンドにおける得点の和〕×〔当該バンドで得たマルチプレイヤーの和〕

8 交信上の注意事項：

- ① コンテスト中の運用場所の変更はコンテストナンバーが変わるものを含めて認める。ただし、管内と管外をまたがる変更は不可とする。
- ② レピータやインターネットを介するもの、衛星通信は不可とする。
- ③電話は、音声によるものであればデジタルで可とする。
- ④ その他については、「JARL コンテスト規約」に準ずる。

9 提出書類：

JARL 電子ログ形式、JARL 制定のログ、サマリーシートの電子メールでの提出、および郵送

10 締め切り： 9 月末日 郵送は消印有効。

11 失格事項：

- ① 規約違反、著しい書類不備、虚偽などが認められた場合
- ② 2 部門にわたっての書類の提出。
- ③ 締め切り後の提出。

12 表彰：管内局管外局共に 5 局までを表彰する。参加局には「渡島檜山支部コンテスト参加証」を贈る。また入賞者は翌年の渡島檜山支部大会で紹介する。

13 その他：

- ①同点による順位付けについては、最終交信時刻が早い局を上位とする。
- ②QSL カードについては、同バンド、同モード、同一運用地などの発行を控えるなど、QSL ビューローに優しい配慮をいただければ幸いです。

14 発表：JARL NEWS(入賞局)、渡島檜山支部報、渡島檜山支部 HP(全参加局)

15 提出・問い合わせ先：

<郵送> 042-0922 北海道函館市銭亀町 210-13 佐々木 朗(JH8CBH)

<メール> ohcontest@edu-hakodate.jp (-は、ハイフン)

メール受領後、速やかに、手動で確認メールを送ります。

○管内局（ハムログコード）

函館市 0104、北斗市 0136、七飯町 01024E、鹿部町 01025B、森町 01025D、
八雲町 01079A、長万部町 01071A、木古内町 01021B、知内町 01021C、
福島町 01067A、松前町 01067B、江差町 01059A、厚沢部町 01059B、
上ノ国町 01059C、乙部町 01053A、せたな町 01028B、今金町 01040A、
奥尻町 01016A

○管外局（都府県・地域等のナンバー）

・北海道の地域

宗谷 101、留萌 102、上川 103、オホーツク 104、空知 105、石狩 106、
根室 107、後志 108、十勝 109、釧路 110、日高 111、胆振 112

・都府県

青森 02、岩手 03、秋田 04、山形 05、宮城 06、福島 07、新潟 08、長野 09、
東京 10、神奈川 11、千葉 12、埼玉 13、茨城 14、栃木 15、群馬 16、山梨 17、
静岡 18、岐阜 19、愛知 20、三重 21、京都 22、滋賀 23、奈良 24、大阪 25、
和歌山 26、兵庫 27、富山 28、福井 29、石川 30、岡山 31、島根 32、山口 33、
鳥取 34、広島 35、香川 36、徳島 37、愛媛 38、高知 39、福岡 40、佐賀 41、
長崎 42、熊本 43、大分 44、宮崎 45、鹿児島 46、沖縄 47、小笠原 48

令和 7 年 7 月 6 日
＜JARL 渡島檜山支部＞

気持ちは、わかるが、なかなかうまくいきそうもない。今回は取り下げ
2mの活性化を目指して「

1 プロジェクト名 「支部CQプロジェクト」

2 趣旨

ローカル局が一番コミュニケーションを取りやすいのは 144 の FM であろう。また、HF 帯にオンエアしている方も、メイン・サブはあるであろうが、144 にもオンエアできると思う。「2mはしーんとしている。」「誰も出ていない。」という言葉が聞かれなくなると、期間を設けて、アクティビティを上げようという試みである。これが12月以降のアクティビティの持続につながれば幸いである。

3 取り組み期間及び時間

11月いっぱいとするが、特に毎週土曜日(1 日、8 日、15 日、22 日、29 日)の午後 8 時から1時間程度は、アクティブタイムとし、積極的に声を出していく。初日は、ロールコール終了後とする。

4 取組の要領

- ・特に縛りはないが、「CQを出す。」「CQを出した方に応答する。」ようにしたい。特に「CQを出す。」ことはなかなかハードルの高い方もいると思うが、「取り組み期間」と思って、思い切って声を出してほしい。アマチュア無線本来のドキドキ感また、交信できた喜びを感じることができると思う。
- ・期間中は、レポート+挨拶程度でもいいので、複数回の交信もOKとする。
- ・交信相手は、支部の方のみにこだわらず、どなたでもいいこととする。
- ・役員が「言い出しっぺ」になるので、可能な限り、可能な時間帯でいいので、声を出してほしい。

5 賞

一か月間で、30局以上の交信に「アクティブ賞」などを送るのはどうだろうか。

令和7年7月6日

<JH8CBH>

青森県支部大会への参加について

青森県支部との交流は、今をさかのぼること20年以上前、上田支部長、佐藤青森県支部長の時代に、海峡を挟んだお互いの支部で交流を進めようということから始まった。津軽海峡コンテストもその交流の一つである。

コロナの年もあり、行き来ができない、支部大会自体開催できないなどがあったが、一昨年から支部大会も復活し、交流も復活された。

去年はこちらの支部大会には、前夜祭に支部長家族とあと1名、さらに、支部大会には1名が来てくださることが決まっている。こちらからは、私1名でした。

人数が多い時は10名前後が行き来していたが、なかなか腰が上がらないというのも現状かと思う。

私も何回か参加しているが、交流としてはとてもいいもので、毎回、参加して良かったと思うことは間違いなしである。一度も経験したことのない方、青森の地酒を飲みたい方、いつもお空でつながる方とアイボールしたい方、一緒に行きませんか。

しかし、お金もかかります。宿泊もあり、時間も取られます。無理しなくても参加できる方、どうぞよろしくお願いします。

1 期日 令和7年9月27日(土)～28日(日)

2 場所 弘前市

前夜祭 9月27日(土) 夜 弘前市内宿泊

支部大会 9月28日(日) 泉野多目的コミュニティ施設 10:00～15:00?

4 日程(仮案)

函館 14:17～ 新函館北斗 14:48～はやぶさ 30号～新青森 16:03～弘前 16:30

前夜祭 宿泊 支部大会

弘前 16:15～新青森 17:32 はやぶさ 25号～新函館北斗 19:01～函館 19:23

5 経費概算

交通費約 17,240 円 宿泊費 8,000 円 前夜祭 5,000 円

などが考えられます。

6 申し込み 先方の準備の都合もありますので、8月いっぱいぐらいまで佐々木へ役員でも役員外でも一向にかまいません。

支部役員でも役員外でも参加できる方を募っていく。

令和 7 年 7 月 6 日

講習会の支援について

1 目的

- (1)第四級アマチュア無線技士及び第三級アマチュア無線技士の養成のため、講習会を積極的に招致し、アマチュア無線の普及に努める。
- (2)特に第四級においては、アマチュア無線の入門であり、入り口でもあるので、広く一般市民に呼びかけ、募集をかけていきたい。
- (3)支部としても、この講習会事業を支援し、事前 PR、運営に協力体制を取っていく。
- (4)講習会では、電波適正利用推進協議会とも連携し、正しい運用を心がけ、啓発グッズなども配布していく。

2 今回の講習会の概略

- (1)第四級アマチュア無線技士養成講座
 - ①期日 令和 7 年 8 月 10 日(日)及び 17 日(日)
 - ②場所 函館市亀田商工会館
 - ③扱い アムール
- (2)第三級アマチュア無線技士(短縮コース)養成講座
 - ①期日 令和 7 年 10 月 5 日(日)
 - ②場所 函館市亀田商工会館
 - ③扱い JARD 直轄
- (3)運営体制(両講習会共通)
 - ②管理責任者 鍋嶋 康文 JJ8KTT
 - ③講師 佐々木 朗 JH8CBH 西川 貴博 JK8TYW

3 支部としての協力

- (1)パンフレットを作製し、印刷する。
- (2)啓発活動を行う。
 - ①函館近郊の高等学校・高等特別支援学校への持参
 - ②市役所・消防・警察・自衛隊・町内会・漁協、登山などのグループへの紹介
 - ③家族・知人への案内(会員に OHB で依頼)
 - ④四級を持っていて三級を持っていない方への啓発(三アマ)
 - ⑤マスコミを利用したPR
 - ⑥蕎屋でのPR(翌日 8/4 四アマ締め切り)
- (3)当日の練習問題・パンフレット等の準備

消防団などにも呼びかけていく。
C B Tもあるが、講習会の需要もある。

(4)昼休みなどを利用してのお話(電波適正利用推進協議会)「

4 推進日程

7月6日 原案提示

7月中旬 ポスター完成 PR開始
学校・職域回りなど

アマチュア無線講習会

自宅から、車から、山から、世界が広がっていきます。法令の改正により、公的な連絡にも使えるようになりました。また、災害時の唯一の通信手段として役立つ例も報告されております。職場、学校、町内会単位での免許取得も歓迎です。

小学生の合格実績もあります。免許取得から、開局までサポートさせていただきます。

アムール

函館市石川町 72-2

TEL:0138-46-6788

担当磯谷まで

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部

函館市銭亀町 210-13

TEL:090-8277-9744

佐々木 朗まで

申し込み・問い合わせ

第四級アマチュア無線技士

¹⁰8月3日(日), ¹⁷8月10日(日)

亀田商工会館

受講料 25,950 円
(18 歳以下 13,850)

第三級アマチュア無線技士

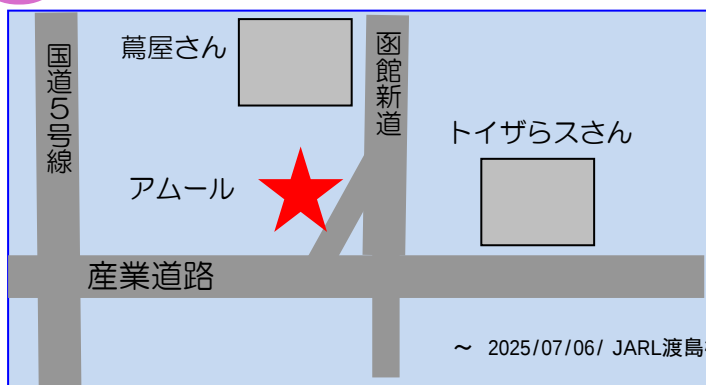
10月5日(日)

亀田商工会館

受講料 14,950 円

※四級の資格でも、全国と交信できますし、海外との交信チャンスもあります。三級になると、四級よりパワーを出すことができ、より遠くと交信することができます。

※三級は、四級の資格を持っている人が対象となります。8月の四級合格者は10月の三級を受講することができます。



令和7年7月6日

<JH8CBH>

地域クラブ（函館クラブ）の再生について

1 経過

J A R L函館クラブは、アマチュア無線の草創期に立ちあげられ、JA8QF 小野さんが会長、JA8VMP 太田さんが事務局長で活動されてきた。近年、アマチュア無線の斜陽化と共に、クラブの活動も少なくなった。また、既に小野会長、太田事務局長はサイレントキーとなり、実質解散状況となった。

支部として、地域に広く門を開けたクラブは必要であると考え、本年春、函館クラブの元メンバーで現在もアマチュア無線を楽しまれている数人と連絡を取り、JARL 函館クラブの再生について、支部がリーダーシップを執ることで了解をいただいた。

また、今年度の津軽海峡コンテストの結果を見ても、敗因は、渡島檜山支部で会員の社団局の参加がなかったことも大きい。そんなことも出しながら、世論を高めていきたい。

2 本提案の趣旨

- ・当支部にもいくつかの地域クラブ、また、社団局があり、活動が行われている。しかし、現状として、多くの方は、どこの組織のも所属していない。
 - ・事業は、支部大会をはじめ、従前まで各地域のクラブが主管となっていたが、それも崩れ、支部直結となっている。
- このような現状を打破していくべく次のように考える。
- ・アマチュア無線を長く続けていくためには、いわゆる一匹おおかみではなく、仲間を作って、互いに学び合い、協力し合うことが大切である。また、同じ趣味を愛好する仲間意識も持つことも大切と考える。
 - ・函館市にも誰でもが入会できる地域クラブは是非必要であると考えられる。
 - ・支部としてやること、各クラブがやること、連携してやることの棲み分けをしていきたい。

ということで、J A R L函館クラブを再生したいが、どうだろうか。ある程度長期計画になると思うが、どこかで手を付けていかなければならないと思う。

このプロジェクトに加わってもいい方

() () () () ()

クラブの設立、増して社団局は難しいであろう